

# インストラクター研修2011徳島を企画して

記入日：2012年 3月30日  
徳島県ネイチャーゲーム協会 村上宜輝

## 1. はじめに

### 【企画の理由】

2011年12月にインストラクター養成講座（岡山）が開催されるのにあわせ、中四国で多く誕生するであろう新インストラクターデビューの場として、徳島でインストラクター研修（以下イントラ研）開催を考えた。

昨年よりイントラ研は、インストラクター有志による検討グループ（以下IKG）が企画する方式に変わった。日本協会事務局や旧IKGメンバーと相談し、手を挙げることにした。

開催地の候補は上勝町とした。徳島県内最小にして高齢化率最高の自治体である。横石知二氏の『そうだ、葉っぱを売ろう』で「いろどり」産業発祥の地として、また財政難を逆手に取った「ゴミウエスト宣言」、全国最多の「34分別」など、全国的にも有名である。選定の理由は、

- ・高齢者に向けた産業をおこし、持続可能な地域づくりを実践していること。
- ・自然物に関わった産業で収入を上げていること。

で、インストラクターが学ぶべきことが多いのではないかと考えた。

更に、山引トレーナーが県内各地の保育所・幼稚園で行っているネイチャーゲームアレンジをプログラムに盛り込み体験してもらうことで、保育士・幼稚園教諭対象の入門講座に幅がでるのではないかと考えた。

### 【提案から開催までの経過】

8月 前年度IKGメンバーにメーリングリストで徳島開催を打診。日程候補は2/24～26。

2日目宿泊地の候補は古民家。仮設トイレ、弁当宅配業者の見積もり。

プログラム検討

「上勝町の魅力」を伝えるべく土地の達人を探し、依頼。

歩きながら様々な気づきを得る、〈ディスカバーウォーク〉がよい。

10月 事前調査

渡辺事務局長（日本協会）と相談。I-NET（未登録者には葉書）で事前申し込みを行う。

30人以下では開催見送りも考えられたが、結果36名が参加仮申し込み。

2日目の宿泊を「山の楽校あさひ」に変更。

今年度のIKGを募集。I-NETを通して、4名の手が上がった。

11月 交通手段

JR徳島駅からの公共交通手段は路線バスのみ。「月の宿」の送迎バスを利用。

予算の見積もり

温泉の夕食、研修中の茶菓子代見直しなどで、参加費25,000円で確定。

プログラム案

IKGメンバーより「自然と人間の関わりについて、民話はどうか」との案。

12月 研修要項

インストラクターニュースレターに同封するため、12/8までに日本協会に送付。

正式申し込みの受け付け開始。

1月 新インストラクターとやりとり

イントラ研について紹介。参加を個別に呼びかけ。

「Q&Aコーナー」を組んで欲しいとの声あり。プログラムに盛り込む。

2月 講師との打ち合わせ・下見

1. いろどり担当（溜本氏）。ネイチャーゲームを説明、研修のねらいを伝える。

2. 上勝町長（笠松氏）。行政による「持続可能な地域づくり」について依頼。

3. ヤッホー認定士（武市氏）。ヤッホーを通じた山の魅力紹介を依頼。
4. 山の楽校オーナー（田上氏）。高丸山のブナ林案内と、保全状況説明を依頼。
5. 地元の語り部（瀧田氏）。民話 60 分、上勝の歴史・林業で 30 分で依頼。
6. 講師山引トレーナーとディスカバーウォークの下見。  
 距離：当初 2～3 km を考える。のち縮小。  
 項目：五感および風景を見ての感想。味覚も盛り込む。  
 上勝の特産「ゆこう」農家との交渉。

その他

インストラクター 5 名＋山引トレーナーで、プログラムの確認と役割分担。  
 高丸山の状況を県立千年の森職員と電話やりとり。  
 参加者は直前のキャンセル含め、全日程 33 名、部分参加 5 名の合計 38 名。  
 宿泊施設と人数、部屋割り連絡とる。人数変更ごとに見積もり取り直す。

## 2. 当日の実践内容

	2月24日(金)	2月25日(土)	2月26日(日)
朝		<フリープログラム> 8:00 朝食	<フリープログラム> 7:00 朝食
午前	11:00 【オプション】JA見学 12:20 JR徳島駅送迎バス出発	9:00 【セッション ③】 持続可能な地域づくりを学ぼう いろいろ事業説明→移動 →ゴミステーション見学 →ヤッホー体験 12:00 昼食	8:00 【セッション ⑦】 里山体験(ブナ原生林散策)  11:30 IKG2012 について
午後	14:00 開会式 14:30 【セッション ①】 入門講座の幅を広げよう (幼児向けアレンジ体験) 17:00 風呂・休憩 18:00 夕食	13:00 【セッション ④】 2012 年度FSアクティビティ 体験 (ディスカバーウォーク) 15:00 【セッション ⑤】 イントラ何でもQ&A 18:00 夕食	12:00 閉会式 解散 12:30 送迎バス出発 (道の駅等で各自昼食をお取り 下さい。徳島のおみやげも充実し ています) 14:30 JR徳島駅到着予定
	19:00 【セッション ②】 自己紹介 理事長と語ろう 日本協会からの報告 21:00 終了/懇親会 <フリープログラム>	19:00 【セッション ⑥】 語り部による「上勝の民話」  20:00 終了/入浴 <フリープログラム>	

### 2 / 24 (金)

- ・JA見学、11名が参加。
- ・徳島駅でのバス集合係は2名（埼玉の田川氏、徳島スタッフの山下氏）。
- ・山引トレーナーによる「幼児向けネイチャーゲームアレンジ」体験。
- ・自己紹介は1人1分。「理事長と語ろう」を IKG 小畑氏に司会進行を依頼。

### 2 / 25 (土)

- ・午前：いろいろの事業説明、ゴミステーションに移動・見学、ヤッホー体験。
- ・午後：ディスカバーウォーク、「イントラ何でもQ&Aコーナー」。
- ・夜：上勝の民話。

### 2 / 26 (日)

- ・午前：高丸山路面凍結で引き返す。イントラ研とは、インストラクターとは、の話しあい。
- ・閉会式、解散

## 3. 参加者からの感想

【肯定的なもの】

- ・ 町全体で取り組んでいる様子が生き生きと町民の方が生活していると感じた。
- ・ 理事長が代わったときは、人となりを知るためにこういう時間も必要。
- ・ 〈ディスカバーウォーク〉1本に絞って体験できて楽しかった。
- ・ お年寄りから話を聞く貴重な体験ができた。
- ・ 地域に持ち帰って自分の町へも上勝の取り組みを伝えたい。
- ・ 他の方の入門講座の取り組みを知ることができた。
- ・ インストラクターとしてどうやったらいいのか、入門講座の手法が学べるのか、が分かって良かった。
- ・ 幼児向けアレンジ、カードの使い方など参考になった。
- ・ 数多くの実戦経験から生まれる工夫、アレンジは貴重。
- ・ ゆっくりゆったり、上勝の自然を感じて良かった。
- ・ ヤッホーの奥深さに感激した。
- ・ 入門講座開催のハードルが少し下がった。
- ・ 地域づくりをしている話は、私たちの生活の上にも役だった。
- ・ 知識の幅が広がった。こういう研修がよい（ゴミステーション見学、いろどり等）。
- ・ 地道なネットワークづくり、人材の掘り起こし、つながりの誠意、いろいろな姿勢を同時に学んだ。
- ・ 今回、研修の3つの目標と合致していた。地域講師として大切なのは、指導技術だけでなくインタープリテーション技術も重要。
- ・ I-NETでのやりとりや、事前の盛り上がりなど、いつもと違った取り組みを感じた。

#### 【今後への意見】

- ・ もう少し時間があると良かった。グループ内での話が十分にできなかったが、内容は充実していた。
- ・ 上勝町の取り組みを学べて良かった。時間が短すぎて失礼でなかったか。
- ・ 「広める方法」を検討するより、「深めるためにどうしたらいいか」「深めるためのスキル」「深めるための体験」を望む。
- ・ 目的の共有化「広めましょう」「深めましょう」。深めるための、思いっきり深いネイチャーゲーム体験や、指導クリニック。
- ・ 「理事長と語ろう」は、事前に情報を集めておくとも良いかも。
- ・ コーディネーターの部分での役割もあるのだし、もっとインストラクターの役割について話し合いたい。
- ・ ベテランが新人を指導する部分もあればうれしい。
- ・ 入門講座の内容を、対象者ごとに検討し、何がまとめられるか検討する必要がある。
- ・ 公益法人下のインストラクターの役割というタイムリーな問題共有があってもよかった。
- ・ 公共を担う意識を考えていきたい。
- ・ FS2012のアクティビティを全部体験することにこだわらなくても良いと思う。
- ・ 新しいFSプログラムをもう少し取り入れて欲しかった。FSは地元ではスタッフで入るため、充分楽しみ学ぶことができない。ねらいをインストラクター同士で話し合う時間が合ってこそそのイントラ研となる。
- ・ 今後のイントラ研は、テーマを毎年考えて、「スキルアップ」「ニューゲーム体験」「町を知る」等開催していく必要があると思う。

## 4. 成果と課題

### 【成果】

3つのテーマ（基本スキルや情報の確認・共有、親睦情報交換、地域講師活動の幅を広げる）について再確認できた。

地域講師の幅を広げるについては、「幼児向けアレンジ」の評価が高かった。入門講座にそのまま使えないかもしれないが、幼児向けアレンジを知って保育士や幼稚園教諭対象の入門講座に臨むと、幼児対象に実践する機会も広がるだろう。持続可能な地域づくりで、上勝町の取り組みに学べたという声は多かった。地域講師として、地元を見直すきっかけになる

意見も挙げられた。

基本スキルや情報の確認共有、親睦情報交換について、初日の「理事長と語ろう」ではあまり質問が出ず、残念であった。2日目の「イントラ何でもQ&A」はグループ討議としたため意見が活発に出て、新インストラクターからもわかりやすいとの評価があった。3日目の「インストラクター研修について」では今後に向けて参加者を絞った研修が提案された。インストラクター研修参加者の多様性については以下述べる。

#### 【課題】

IKG システムの2年目としての課題。主催は日本協会、企画立案は IKG、運営の主体は地元のインストラクターという構図が見えてきた。つまり、IKG で受けると言っても、どこかの都道府県でやるのだから、地元の県協会の協力は欠かせない。

今回 IKG と地元スタッフとの役割分担が明確でなかった。「IKG メンバーはここまでやる」「地元イントラはここからやる」という分担をしっかりとさせること。お世話役は当日の仕事を少なめにして、全体進行に徹した方がいい。徳島県協会ではインストラクター5人+トレーナー1人の充実したスタッフで運営できたが、インストラクターの少ない地域では、手を挙げにくいのでないか。

FS の新アクティビティをプログラムに入れるか、入れないかで議論が分かれた。新制度でのインストラクターはFSの講師はできないのだから、不要と判断した。

もっと根源的には、日本協会は新制度で数年たったことをふまえて「インストラクターとは何か」を再定義して欲しい。それによって「インストラクター研修」が成立する。我々の立場の曖昧さを指摘した声が多かった。イントラ研に参加している人々の立場は5つに分類できる。

- A. トレーナー（インストラクターは下位資格であるため参加可能）
- B. 講座講師資格、コーディネーター資格のあるインストラクター
- C. 講座講師資格のあるインストラクター
- D. コーディネーター資格のあるインストラクター
- E. インストラクター資格のみ

「元 中級指導員」と「新制度下のインストラクター」の間にイントラ研のあり方について認識の違いがあった。「講座講師」とそうでないインストラクターとの間にもそれはあった。

今回は、インストラクターはコーディネート能力を意識して欲しいというねらいでプログラムを組んだが、コーディネーター資格を持たない（その必要性を感じない？）インストラクターにとっては、別な意見も生まれるだろう。対象者を絞った研修も望まれる（部会でも可）。

## 5. 本報告を参考にされる方へ

徳島という交通の不便なところでこそ人が集まったのは、大きな収穫だった。いい意味でインストラクター研修は現在「手を挙げたもん勝ち」である。自分の問題としてとらえて欲しい。200人のインストラクターが持ち回りで10年に1回程度関わる様になれば、問題意識の共有が行われるのかと思う。

インストラクターは地域での中心的役割を担っている。ならばぜひ、コーディネーターの学びをして欲しい。入門講座はコーディネーター能力を大いに必要とする。ぜひ、インストラクター全員がコーディネーター能力を高めて各地で活躍し、イントラ研で情報交換していければと思う。

## 5. 活動写真



〈フクロウとカラス〉アレンジ



ヤッホー実習

上勝町長と集合写真



「ゆこう」を味わう

ゴミステーション見学



活発な話しあい